

もの言う牧師のエッセー 第279話

「イスラエル快進撃」

大いに盛り上がった第4回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）。特筆すべきは米国など強豪チームの本気モードだ。ワンプレーに一喜一憂し、雄叫びを上げる選手たち。まるでポストシーズンの10月のような戦いを3月の春季キャンプの時期に見ることができた。初優勝を果たした米国は、72歳の名将ジム・リーランド監督が選手と個人面談を行い「米国のために出場したい」と直訴した選手だけで戦い、悲願を果たした。

いっぽう、1次リーグA組で、初出場のイスラエルが初戦で韓国を延長戦の末に破って勢いに乗り、台湾、前回4強のオランダも下し、3戦全勝で1位通過。2次リーグでもキューバに4-1で快勝するなど世界を驚かせた。登録メンバー28人のうち、本国生まれは1人。マイナーリーグに所属するユダヤ系米国選手が大半を占め、大会前には複数の選手がイスラエルを訪れたという。その1人のデッカーは、「自分たちが何のためにプレーしているのか理解した」。米大リーグ通算124勝のマーキーは、「ユダヤ人の両親から生まれ、ニューヨークで育った自分にとって、ワクワクする時間になる」と目を輝かせ、右翼手のボレンスタインは「1点を取るために500フィート（約152メートル）の本塁打を打つ必要はない。失策出塁、犠打、犠飛などが大きな影響を与えると理解している。誰か1人がヒーローになろうとしないのがチーム方針であり強みだ」と連帯感を謳う。

73歳の老将ジェリー・ウェインスタイン監督は今回の活躍に驚くことなく「優秀なスカウトがもたらしたデータに基づきチェスのようにゲームを進める。強みはバランスの取れたチームであること」などと淡々と話す。自国を愛し、全選手が自己犠牲をいとわず、日本のお株を奪う綿密なデータに基づくイスラエル野球を見て、聖書の

「David's Mighty Men（ダビデの偉大な勇者たち）」 1歴代誌11章10節：英訳、

を思い出した。彼らの中にはたった一人で300人を刺し殺した槍の達人などが大勢いるのだが、各人の武功を封印し、

「全イスラエルに対するダビデの王権を強固にし、イスラエルについての主の言葉のとおり、彼を王とした人々である。」同節。

イエスを心から信じた者は、他者を愛し、教会のチームに属し、自己のためではなくキリストのために働く。快進撃は間違いなしだ。

2017-4-1

